

& Seig

No.
60
Jun. 2022

卒業生教員紹介
歩む人たち

各校・園
同窓会紹介

● **理事長メッセージ**

● **新任教職員の紹介**

関係団体の皆さんにインタビュー
支える人たち
放課後NPOアフタースクール

巻頭特集

**ともに、
学ぼう**

巻頭座談会

聖学院卒業生の教員と
聖学院中高在校生による
トークセッション



ともに学ぶ

特集

& Seig

ASF NEWS
ALL SEIGAKUIN FELLOWSHIP NEWS

No.
60

Jun. 2022

CONTENTS

01_ 巻頭特集 ともに、学ぶ

聖学院卒業生の教員と聖学院中高在校生による
トークセッション

03_ &Talk

07_ 卒業生教員紹介 歩む人たち

07_ 聖学院みどり幼稚園

08_ 聖学院幼稚園

09_ 聖学院小学校

10_ 女子聖学院中学校・高等学校

11_ 聖学院中学校・高等学校

12_ 聖学院大学

13_ 聖学院各校・園 同窓会紹介

15_ 理事長メッセージ

17_ 新任教職員の紹介

19_ ASF事務局からのご報告

関係団体の皆さんにインタビュー

21_ 支える人たち
[放課後NPOアフタースクール]

22_ Seig NEWS

27_ 2023年、聖学院は創立120周年を迎えます

29_ 聖学院オリジナルスプーン プレゼントの
お知らせ

39_ 120年の轍を歩む
聖学院歴史探訪
[EPISODE #17]

ASF NEWS No.60 アンケート

QRコードからあなたの声をきかせてください。
アンケートに回答いただいた方の中から抽選で
10名様に「聖学院オリジナル箸セット」をプレ
ゼント!いただいたご意見は、編集の上本誌に
てご紹介させていただくことがあります。



- 有効回答期間
2022年6月27日～2022年8月31日
- 当選発表
当選者の発表は、賞品の発送をもって
代えさせていただきます。



本アンケートに関するお問い合わせ
聖学院広報センター Tel 03-3917-8530

編集/学校法人聖学院 広報センター
デザイン/株式会社キュー・ジー
発行日/2022年6月17日

聖学院の卒園生、卒業生に母校のことを聞くと、感謝の言葉を口にされる方がたくさんいます。と同時に楽しかったという言葉をよく耳にします。幼稚園で遊ぶのが楽しかった、英語が楽しかった、行事が楽しかった、ボランティア活動が楽しかった。聖学院は行事や課外にも子どもを成長させる要素がきちんと設定されています。楽しかったシーンは人それぞれですが、いずれも根底には学びがあります。ただ楽しいだけではなく、主体性を尊重し、教員がきちんと見守り学びへと誘う。こうして「学び＝楽しい」という感覚で幼稚園・学校生活を過ごされてきました。

また卒園生、卒業生の中には聖学院の教壇に立つ方もいます。学びに対してポジティブな意識をもつ先生方が今、子どもたち、後輩に教えたこととは何かをうかがいました。社会の変化と共に変わりゆく教育の中で、教員もまた教育法、学習法を学びアップデートしています。ともに学ぶ、そのスタンスが聖学院には根付いています。



&Talk

特集 **ともに、学ぶ**

子どもの興味関心を出発地点として学びに導いていく。
そこで芽生えた「学びは楽しい」という価値観は
やがて他者のために世界のためにと広がっていきます。





たまき せいいち
玉木 聖一

聖学院中学校・高等学校理科教諭、理科主任、中学1年担任、バスケットボール部顧問。2005年度聖学院高等学校卒業。立教大学大学院理学部物理学専攻博士前期課程修了後、博士後期課程に進学するが学校教員へ転身。現在、学習者中心の学びに力を入れている。



あらい ゆうこ
新井 裕子

聖学院小学校、女子聖学院中高、聖学院大学卒業。大学卒業後、他大学の教育学部にて小学校教員免許を取得。聖学院小学校では英語の非常勤講師を務めた後、専任教諭として理科・体育などを担当。現在は6年生を担当している。



すずき やすふみ
鈴木 康文

聖学院中学校3年生。3歳上の兄の影響で、聖学院幼稚園に入園。聖学院小学校では5年生で児童会副会長、6年生で児童会会長になる。中学校では生徒会に立候補し、2年生では会計補佐。今年度は生徒会副会長になる。また、小学生の時に卓球にハマリ、現在卓球部に所属している。

思考力をはじめとする学力の3要素、非認知能力、STEAM…(※1)(※2)。かつて教育は、一つの決まった答えに児童、生徒、学生がたどり着くことを求めています。しかし、現在では明確な答えがない問いに対し、一人ひとりが自分なりの最適解を導き出す力が求められ、教育法は日々進化しています。それは気候変動や新型コロナウイルス、AIによる働き方の変化など、明確な答えがない社会や環境に対応していくためであり、一人ひとりの幸せのあり方も多様化してきたためです。

変わりゆく教育の中、聖学院ではどのような変化が起きているのか、また変わらぬものとは何かを、聖学院中学校・高等学校(以下聖学院中高)の玉木聖一先生、聖学院小学校の新井裕子先生、聖学院中高の中学3年生の鈴木康文さんにかがいました。鈴木さんは聖学院小学校の卒業生で新井先生の教え子です。また両先生は聖学院で学んだ卒業生でもあります。

いつの時代も温かさや居心地の良さがある

— 聖学院はどういう学校だと思いますか？

鈴木 クラスメイトのことで言えば、教室の隅に一人であるような生徒をあまり目にしないという印象です。みんながお互いに話しかけます。誰とでも話せるし別のクラスの生徒とも自然と話せます。

新井 私自身も聖学院小学校の卒業生で、自分もそうだったと思います。自分のクラス以外の子どもなんて顔見知りでした。男女、学年問わず自然と話していました。聖学院の児童は、誰でも受け入れる雰囲気をもっています。鈴木くんの話を聞いて、それは変わらない点だなと思いました。

玉木 聖学院中高の生徒を見ていても本当にそういう雰囲気を感じます。私が生徒だった時のことを振り返っても温かさがあつたと思います。私は高校から聖学院に入りました。入学してみて感じたのは、生徒一人ひとりの発言の温かさでした。自分はこの居て良いと承認されているような感覚です。

また先生が声をかけてくれる頻度がとても多かったのを覚えています。話もよく聞いてくれましたし、本当によく見てもらえていると高校生ながらに感じました。

新井 私が小学校から中学校にあがつて一番驚いたのは、中高は生徒が中心になって物事を進めているということでした。行事の企画も運営も、すべて生徒同士で考えて話し合っていて決まっていきました。でも困ったときには、必ず先生がそばで見守っていて相談のつてくれる。そういう温かさがありました。寄り添ってくれる安心感、居心地の良さのようなものです。

行事にも成長のための学びが用意されている

— 鈴木さんが聖学院中高への進学を決めた理由はなんですか？

鈴木 まず兄、康介が聖学院中高のアドバンストクラスに進学したこと、そして小学校5年生の時に親と聖学院中の学校説明会や合同説明会に行き、そこで興味を持ったのがきっかけです。印象的だったのは、体験学習がただの行事ではなく本当に学びになっているということでした。糸魚川農村体験学習という宿泊行事の場合、行く前からその土地の歴史、文化などを調べ、SDGsと関連して考え、生徒たちで「その土地の良さを未来に残すには？」というような問いを立てます。

その問いの先に体験があるという考え方が、他校と全く異なっていました。そういう説明を聞いて、聖学院中高に行きたいと思いました。

玉木 体験学習は、行けば終わり、行けば解決という行事ではありません。できれば生徒が何かに気づいて、モヤモヤした状態で帰ってきてほしいと思っています。モヤモヤしていると、ふとした時に「そういういえばあれ、何だったんだっけ？」と思ひ出します。そうすることによって深まっていく学びがあります。中学2年生は山に行き、中学3年生は農村体験をします。高校1年生の時にソーシャルデザインキャンプというフィールドワークを行



新潟県糸魚川各地区の家庭にホームステイして、聖学院の森の植林作業や田植えなどを体験する宿泊行事。生徒が自分たちで現地の知識を深め、問いをたて、課題解決に挑戦します。



い、高校2年生で沖繩に行き平和について考えます。考える規模が少しずつ大きくなっていくよう設計しています。

自分で選んで自分で学ぶから主体的な学習姿勢が身につく

— 教員を目指したきっかけと今大切にしていることは何ですか？

玉木 聖学院高校の時の担任の先生がとてもよく接してくれました。その先生のようにになりたいという憧れを抱いて教員を目指しました。大学では物理学を学び、大学院の博士課程まで研究を続けていました。大学院の時に身につけたことが今教員としての行動の指針になっています。それは「気になる」を大切にすることです。研究者はみんな気になるとか知りたいという興味関心が最初であり、それを解き明かすために研究をします。気になったことを調べて考え結論を出す。このサイクルが身につけば様々な場面で役に立ちますし、勉強に置き換えることもできます。ですから生徒にはいろいろな気にしてほしい。そして調べてほしいです。調べる時に、どう調べたら良いのかも自分で考えられるようになったら素晴らしいと思います。

聖学院中高には今「learner」という考え方があります。教えられるのではなく、自ら興味関心をもって探究する学習者のことです。研究者の姿勢と

同じで本当に良い指導目標だと思っています。そして、その「learner」の入り口として聖学院中高では自学という学習法を取り入れています。

鈴木 自学は、自分が興味を持ったことを自宅で調べる勉強です。教科に限らず好きなことをできるので、自分の興味関心を突き詰めて学べます。帰りのホームルームで「できたこと生徒手帳」という手帳にその日何をやるかを書き、そのスケジュール通り学ぶので時間管理もできます。

聖学院小学校にも自学はありません。高学年の時は英検の勉強をしていました。自発的に机に向かって勉強するきっかけとなったのが自学です。

新井 やらされるのではなく自ら選ぶ。選んで学ぶ主体的な姿勢を身につけるために小学校でも自学を取り入れています。今はインターネットが普及している分、子どもたちの探究心も強くなってきたと感じます。全員が同じ勉強をするのではなく、その子の興味にあわせて時間を使っていくことが大事だと思います。

玉木 研究で一番大変なのは最初の「何を調べるか」を自分の中から出すことです。興味があることや気になることに常日頃から目を向けていないと出てくるようにはなりません。今、聖学院小学校にも自学があると聞いて驚きました。小学校からそういう積み重ねがあるというのはとても素晴らしいことです。

変わりゆく教育法と変わらないもの

— 新井先生が教員になられた経緯を教えてください。

新井 最初は教員を目指したというよりは英語が好きで英語の勉強をするために進路を選んでいました。ただ当時は英語を使う職業をあまり知らなかったので英語だけで進路を選ぶことに迷いもありました。そんな時に小学校や中高でお世話になった先生方から「教育学を学んで教員になれば英語を生かせる」と教えていただき教員を目指すようになりました。大学は聖学院大学の欧米文化学科に進学しました。大学のゼミの授業は英語で行われて、1年生の時、アメリカ人のネイティブの先生が担任だったこともあり、学生生活の会話の半分以上が英語でした。聖学院大学では留学も体験でき、英語漬けの充実した4年間でした。その後、教員としての学びをもっと広げたいと思い、別の大学の教育学部に入りました。教員免許取得後に聖学院小学校からお声がけをいただいて、母校の教員になりました。

今は教育法の変化も早い時代です。教育学を学んで教員の資格をとったらそれで終わりということはありません。私たち教員も学び続けることが必要だと感じています。私は2つの大学に通い、一方でネイティブの先生を通してアメリカの教育法を体験し、もう

一方で体系立てた日本の教育法を学びました。一見、遠回りをしたように見えるかもしれませんが、その時間を通して、多角的に教育法を学ぶ大切さを実感しました。

玉木 聖学院中高の先生方も学習法や指導法を研究し続けています。アクティブラーニングを取り入れたのも早かったですし、STEAM教育やICEモデル(※4)を取り入れてあります。皆さん「生徒にとって何が一番良いんだろう」と探究し続けていてとても勉強熱心です。

——今と昔の教育法で大きく変わったところはどこですか？

新井 私が子どもの頃は、用意された学習に子どもたちが乗っかっていくイメージでした。今は、先ほどの「自学」でも触れたように、子どもたちが自らの学びを見つけ、教員がサポートするイメージです。変わったところがある一方、教員の熱量と、いつも子どもたちに寄り添う姿勢は変わらないと思います。

玉木 新井先生がおっしゃる通り、教育法は本当に変わったと思います。かつては1つの決まった答えをどう導き出すか、ということが中心だったのに対し、今は一人ひとりの考え方や価値観を問うことが多くなりました。また「生徒は必ず良いものを持っている」という想いは変わっていないと感じます。

新井 最終的に人に仕えていくために必要なことを学ぶというところははずっと最初から変わっていないと思います。神様がどういう世界を求め、そのために我々は学んだことをどう使っていくか。そこが聖学院の教育の原点なのではないでしょうか。だから教員は誰のことも見放さないし、賜物をその子と一緒に探し続けていくのだと思います。

友だちとともに、学ぶ 子どもたちとともに、先生も学ぶ

——鈴木さんはこれからやってみようことや将来の夢はありますか？

鈴木 具体的なことはまだ考えていないのですが、中学校での経験や学びをいかして高校で何か新しいことにチャレンジしたいと思っています。

新井 背伸びせず、落ち着いて、着実に一歩一歩進めていくのが鈴木くんらしいですね。

玉木 鈴木くんは生徒会副会長ですが、生徒会の楽しいところはどこですか？

鈴木 自分の行動で、生徒みんなの学校生活を楽しくできるところにやりがいを感じています。

新井 鈴木くんが先ほど「聖学院にはひとりぼっちになる生徒があまりいない」と言っていたのがとても印象的です。小学校から鈴木くんを知っている私は、まず彼自身がそういう空気を作り出せる生徒だと感じています。鈴木

くんは意気込むわけではなく自然と人のために行動できる、そういう特徴があると思います。

——教員としての思いや大切にしていることを教えてください。

玉木 僕は生徒に「研究できる人」になってもらいたいと思っています。実際に研究者になってもほしいということではありません。興味は自分の感情が動いた時に湧いてくると思っています。難しいことですが、生徒には、自分の感情の揺れに気づいて「あれ？」と調べて行動できるようにしてほしい。そして学びの中で培った知識を、次は理論に落とし込む、そういうサイクルが自分の中で作れば、どんな分野でも活躍できると思います。

新井 小学校では、自学で学んだことを友だちと教えあう姿が増えてきました。子どもたちは自ら学んだことを自分だけのものにせず、共有して視野を広げています。その視野は、中高でさらに広がっていくと思います。例えばSDGsに触れて世界に目を向けるようになるのもその一つだと思います。

私たち教員も立ち止まらずに、子どもたちと同じ気持ちで世界へと視野を広げていかなければいけないのではないかと感じています。

(取材日/2022年5月)

※1 学力の3要素
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」主体性・多様性・協働性の3要素を指す。
(出典: Kei-Net/学力の3要素 https://www.kei-net.net/jp/exam/basic/term/ka_05.html)

※2 非認知能力
テストなどで数値化することが難しい内面的なスキルを指す。具体的には「目標を決めて取り組む」「意欲を見せる」「新しい発想をする」周りの人と「田舎な」「ユニーク」なことを「褒め」たい力のこと。
(出典: embot/非認知能力とは <https://www.embot.jp/news/36501>)

※3 STEAM教育
科学・技術・工学・芸術・数学の5つの英単語の頭文字を組み合わせた造語。
科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、アート(Art)、数学(Mathematics)の頭文字を組み合わせた造語。5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念。知る探究びつくる(創造)のサイクルを生み出す、分野横断的な学習。
(出典: STEAMJAPAN/STEAM教育とは <https://steam-japan.com/about/>)

※4 ICEモデル
カナダで開発・実践されてきた評価モデルで、IはIdeas(基礎知識)、CはConnections(つながり)、EはExtensions(応用)を意味します。問いに対してどのように答えるかによって、I・O・Eのどの段階にいるかを評価する視点。
(出典: Albase/ICEモデルとは <http://www.tneta.net/education/ice-model/index.html>)



聖学院中高の中学1年生の情報プログラミングの授業。自分の作ったプログラムでドローンを飛ばしたり3Dプリンターでオブジェを作成したりします。

歩む人たち

「卒業生教員紹介」

9

聖学院みどり幼稚園卒園
ふるた
古田 しおん 先生

PROFILE

2006年聖学院みどり幼稚園卒園。小中高は地元の学校に通い、その後青山学院女子短期大学子ども学科入学。3年間の短大卒業後、同大学の専攻科に進学。今年から母園である聖学院みどり幼稚園に勤務。



古田先生が在園していた時は現在の園庭の砂場の横に、プータロという遊びの丸太小屋がありました。そこで抹茶を体験したり、おままごとをしたそうです。当時を知る人にとっては思い出深い施設です。

子どもを中心に考え保育を考える
そういう保育観が大切だと思います

クリスチャンの家庭で育ち、幼い頃から教会に通っていた古田しおん先生。教会で自分より小さい子どもの世話をすることが好きで、そのことが保育者を目指すきっかけとなりました。

古田先生はみどり幼稚園の卒園生で今年4月に幼稚園教諭として園に戻ってきました。在園時の思い出は、ひたすら遊んでいて、とにかく楽しかったことだと思います。小学生になっても、幼稚園が楽しかったことを自慢していたと言います。遊びを中心とした保育を行うみどり幼稚園は、園児が自分でやりたい遊びを選び遊び抜くこと、保育者が遊びを決めるのではなく、まず子どもありきで保育を考えることを大切にしています。人は知りたい、楽しい、という感情から学びが始まります。その根本にある興味を大切に、遊びを深めたり、最後までやりきったりすることが非認知能力(※)を育て、後の探究的な学習にもつながります。遊びを大切に

する背景にはこのようなみどり幼稚園の想いがあります。

古田先生は保育を学んでいく中で、保育の中心には子どもがいて、子どもの姿を見て遊びを考えていくというみどり幼稚園に通じる保育観を知ります。この考え方に触れ、みどり幼稚園が遊びを大切にすることを理解できたそうです。「子どもが興味を持たないと遊びは広がっていきません。幼稚園にはさまざまな形があつて然るべきです。ただその根底には子ども中心という考え方があつて良いと思います」と古田先生は言います。

幼稚園が携わるのは、人生1000年時代と言われている中のたった3年間です。しかしその3年間の体験や学びがその後の人生の基盤になります。古田先生は最後に「保育者は保育技術や知識だけでなく、どのような保育観に触れ、学ぶのかということも大切だと思います。」と語りました。

※意欲や行動力、コミュニケーション力等



聖学院みどり幼稚園の園庭。今も昔も子どもたちが自由に遊べる広大な園庭です。

2006
聖学院みどり幼稚園
卒園

2006~
小学校、中学校、高校は
地元の学校に通う

2018
青山学院女子短期大学
子ども学科入学

2021
青山学院女子短期大学
専攻科に進学

2022
聖学院みどり幼稚園
着任

歩む人たち

「卒業生教員紹介」

10

高須 萌先生
たかす もえ
聖学院小学校／
女子聖学院中学校・高等学校／
聖学院大学卒業

●PROFILE

聖学院小学校、女子聖学院中高、聖学院大学を卒業後、聖学院幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。高校時代、運動会で学年をまとめる主将を3年間務めた。大切な仲間や先生方との出会い、様々な学びが、自分の人生の礎となった。旧姓 笹木。



園児と一緒に昼ご飯を食べる高須先生。保育の時間も笑顔です。



聖学院幼稚園の教室にて。「先輩から愛情を込めて教えていただいたことを引き継ぎ、この雰囲気を守っていきたい」と高須先生。

子どもたちにとって、安心して過ごせる場所、自分らしくいられる場所でありたい

小学校から大学まで聖学院に通い、大学卒業後、聖学院幼稚園に勤務されている幼稚園教諭の高須萌先生。6歳からずっと聖学院で過ごされています。聖学院について高須先生は「愛に溢れた場所です、そこにいられたことを誇りに思います」と言います。女子聖学院中高への進学も高須先生本人の意思で、子どもの頃から聖学院が大好きだったことが伝わります。大人になってからは教員という視点で聖学院を見るようになり、在学時に自分が守られていたかを知って改めて感謝されたそうです。

高須先生に、保育士ではなく幼稚園教諭を選ばれた理由をたずねると「保育園は生活に必要な力を養うことに、幼稚園は人間としての成長に重きを置いている印象があり、幼稚園教諭の方が自分に合っていると感じました」と教えてくれました。また、「子どもたちを認め、受け入れること」を大切にし、

日々幼稚園教諭の職にあたっていると、も言います。子どもたちに関わる中で、承認された環境で子どもたちが育っていくことをとても重視しています。そしてこの考え方は神様が一人ひとりを愛してくれているという聖学院の教えにも通じます。「幼稚園が子どもたちにとって、安心して過ごせる場所、自分らしくいられる場所であることを心がけています。子どもは認めてもらえる、大人も同じです。受け入れられるということはとても幸せなことだと思いません」と高須先生は語ります。

在学時のことも幼稚園教諭のことも、聖学院のことを語る時、高須先生はずっと笑顔で常に嬉しそうでした。高須先生も認められ、受け入れられてきたからこそその笑顔ではないでしょうか。聖学院幼稚園で高須先生に受け入れられ、その体験をもって幼児教育に携わる人がこれから出てくるかもしれません。

2003
聖学院小学校
卒業

2009
女子聖学院中学校・高等学校
卒業

2013
聖学院大学人間福祉学部
児童学科
卒業

2013
聖学院幼稚園に
着任

歩む人たち

「卒業生教員紹介」

11

飯泉

奈那

先生

聖学院幼稚園／聖学院小学校／
女子聖学院中学校・高等学校卒業

●PROFILE

女子聖学院中高卒業後、看護師を目指し大学進学。大学病院での看護師経験後、フリーランスとして産業保健、地域福祉、学校教育などに関わる。2020年より現職。



保健室には子ども向けの保健に関する本が多数用意されています。児童が気軽に来られる場所にしたいと飯泉先生。「からだのことや二次性徴の悩みを相談できたり、一息つけるのも保健室の役割だと思っています」。実際お話を伺っている時も児童が訪ねてくる場面がありました。

女子聖学院中高のボランティア活動で 看護師になることを決めました

幼稚園から聖学院で過ごされた飯泉奈那先生。聖学院小学校の保健室の先生である養護教諭をされています。飯泉先生は女子聖学院中学3年生の時、学校主催の障がい者支援施設のボランティア活動を知り、参加しました。「役に立つことができれば」と思っていた飯泉先生ですが、いざ施設に行ってみると右も左もわからず、自分には何もできないことを思い知らされます。特に会話ができない利用者さんにはどう接して良いのか戸惑いました。それでも施設での時間は楽しく年1回のボランティア活動には大学生になっても参加し続け、回を重ねるごとにできることが増えていきました。利用者さんとも気負わずフラットに接することができるようになり、会話が成立しなくても時間を共有するだけで「コミュニケーション」は成立することもわかりました。そして、飯泉先生は利用者さんには、一人ひとり得意なことがあると知ります。キラキラした賜物をもっている方

で、社会で自立するのは困難な利用者さんたち。そういう課題が見えてきたことで、飯泉先生の中にも変化が生まれました。「自分が彼らの手助けをすれば彼らの賜物をもっと輝くはず」。こうして飯泉先生は医療福祉に興味を持ちます。そして看護師なら、医療や福祉だけではなく教育にも携われると知り、看護師資格が取れる大学への進学を決めました。

卒業後、飯泉先生は医療機関や施設、企業で看護師・保健師として経験を積み、現職に至ります。飯泉先生は子どもたちが怪我をした時、処置をするともに、児童が自分でも手当てができるように、どうやって処置をしているのかを伝えています。セルフケア能力という考え方で、とても教育的側面を意識されている先生です。ボランティア活動を通じて、誰かの賜物をもっと輝かせたいと思った飯泉先生は今、養護教諭として子どもたちの賜物を輝かせています。



聖学院小学校の保健室。入り口と窓が校庭に面していて、子どもたちも安心して入れる作りになっています。

2000
聖学院幼稚園
卒園

2006
聖学院小学校
卒業

2012
女子聖学院中学校・高等学校
卒業

2012～
大学で看護師・保健師・養護教諭の資格取得。
その後医療機関・施設、企業等で
様々なキャリアを積む

2020
聖学院小学校に
養護教諭として着任

歩む人たち

「卒業生教員紹介」

12

小島 さなえ 先生

女子聖学院中学校・高等学校卒業

PROFILE

数学科教諭。高校2年生担任。華道部顧問。津田塾大学芸学部情報数理科卒業。2010年4月、女子聖学院中高就任。



在学中に華道部に所属していた小島先生は、現在は華道部の顧問。

女子聖学院という環境の中で出会えたことを大切にしたい

数学科の教員である小島さなえ先生は、高校1年生で数学に興味を持ち、高校2年生からのクラス分けでは理系クラスを選択しました。理科や数学が好きな個性的な生徒が集まったとても楽しいクラスだったと言います。合唱コンクールは今でも女子聖学院らしさを象徴する行事の一つですが、小島先生にとって在学中の一番の思い出はその合唱コンクールだそうです。合唱コンクールは課題曲と自由曲を歌います。小島先生の理系クラスは、指揮者の生徒の提案で、自由曲として伴奏のないアカペラの曲を選びました。これは当時たいへんな冒険でしたが、先生や他のクラスの生徒を驚かせようと、演出にも凝って、もちろん歌もしっかり練習をして本番に臨みました。発表が終わると拍手とともにどよめきまでわき起り優勝を確信したと言います。しかし残念ながら結果は特別賞でした。「新しいチャレンジは簡単には理解されないものだ

よ」と当時の担任の藤原博伸先生に励まされて、しかし、翌年には同じ仲間たちと見事優勝することができました。数学の面白さに気づいたのは、高校3年間数学を教えてくれた鎌塚千絵先生のおかげで、鎌塚先生の出身校でもある津田塾大学へ進学し情報科学と数学を学びました。教員をめざしたきっかけは、一緒に勉強をしていた同級生に数学を教えたときの「コジのおかげでわかるようになった」と褒められ、感謝された経験だと言います。何もできないと思っていた自分でも、教育という仕事を通して誰かの役に立てることに気づきました。「自分の後輩でもある生徒たちがどんな未来を描くのか、そしてそれを手助けすることが自分の仕事ならなんて幸せなことだろう」と笑顔で語る小島先生の「女子聖学院という環境の中で出会えたことを大切にしたい」という言葉がとても印象的でした。

「生徒との信頼関係を大切にして、話しかけやすい先生を目指します」と小島先生。



「生徒との信頼関係を大切にして、話しかけやすい先生を目指します」と小島先生。

2005
女子聖学院中学校・高等学校
卒業

2008
女子聖学院中学校・高等学校
で教育実習

2009
津田塾大学芸学部
卒業

2010
女子聖学院中学校・高等学校へ
数学科教員として就任

歩む人たち

「卒業生教員紹介」

13

宮 聡 先生
みや さとし
聖学院中学校・高等学校卒業



「卒業してから完成した新校舎で教えたいという気持ちもありました」と宮先生

数学が苦手な生徒たちにも、
少しでもその楽しさを知ってもらいたい

聖学院中学校で数学の授業を担当する宮聡先生。数学の教員になることを心に決めて数学科のある大学へ進学、大学院博士課程前期まで修了している宮先生ですが、意外なことに数学が苦手だった時代があったと言います。中学校で急に難しくなった数学に、中学入学当初はだいぶ苦戦しました。しかし、小学校時代に出会った先生の影響から小学校の先生になる夢をめざしていたため、数学が苦手とは言っていないで、地道に勉強に励んだ結果、だんだんと成績があがり、そして数学への自信を確固たるものにする「テストで100点を取る」ということができ、高校1年生のときに起りました。

授業と社会とのつながりが理解できないと「数学は実社会で役に立たない」という意見になりがちですが、例えばGPSに連立方程式が使われていることや、デザインや建築などに黄金比が使われていることなど、実は数学は生

●PROFILE

数学科教諭。学年主任(中学3年生)。日本大学大学院総合基礎科学研究科博士前期課程修了。2005年4月、聖学院中高就任。聖学院中高第92回卒業。



鉄道好きの宮先生は鉄道研究会の顧問

活の中で大いに活用されています。宮先生が日頃、数学に関するニュースやテレビ番組を欠かさずチェックしているのは、自分自身の数学への興味によることも大きいですが、数学への関心を高めるような話を授業の中で生徒たちにしたいという気持ちがあります。

教員として、いつまでも生徒たちと直接関われる立場でいることが宮先生のビジョンであり、個人的には学級経営や生徒指導を重視していきたいと言います。強いリーダーシップで引っ張っていくよりも周りの人を背後からフォローすることを大切にしている宮先生。先生の授業を受けた生徒が、教員になる夢を追ってくれたら本当に素敵なことだと思います。

「来年、2年前に聖学院中高を卒業した生徒が数学の教育実習に来ます」とうれしそうに教えてくれました。

1996
聖学院中学校
卒業

1999
聖学院高等学校
卒業

2003
日本大学文理学部数学科
卒業

2005
日本大学大学院
総合基礎科学研究科博士前期課程
修了

2005
聖学院中高へ数学科教員として就任
洗礼を受けてクリスチャンに

歩む人たち

「卒業生教員紹介」

14

聖学院大学卒業
たけぶち かおり
竹淵 香織 先生



竹淵先生の研究室にて。「学生相談室は立ち上げの際から関わっています」と竹淵先生。

学生一人ひとりが見えたいと思うことに
一緒に向き合っていきたいです

●PROFILE

聖学院大学基礎総合教育部准教授、学生相談室長・カウンセラー。公認心理師、臨床心理士、臨床発達心理士。その他、学校法人自由学園最上学部非常勤講師、施設や行政の職員研修講師なども務める。



学生相談室の様子。ここはどのようなことでも自由に話し合い、相談できる場所になっています。

児童学科の卒業生である竹淵香織先生は、聖学院大学の学生相談室でカウンセラーをしています。竹淵先生は学生時代、小児科病棟でボランティアをしていました。幼稚園教諭を目指していた竹淵先生はゼミで発達心理学について学び、幼稚園に通えない子どもの発達に興味を持つようになったそうです。そんな時、恩師の紹介で病院ボランティアを始めたと言います。そこには長期入院をしている子どもたちがいて、彼らのための院内学級がありました。病院で竹淵先生は、医療スタッフ、院内学級の教員と子どもたちの間をつなぐ役目を担いました。病気を抱えながら頑張る子どもたちと関わるうちに、幼稚園教諭のような大勢の保育者という立場ではなく、困難を抱えた一人ひとりと向き合う立場の仕事に就きたいと思うようになりました。そして現在、竹淵先生はカウンセラーとして日々学生からの相談を受けています。

大学は専門知識を得るだけでなく、「自分って何だろう?」と考えるなど、自分自身と向き合う場でもあります。そんな時、悩みや困難の解決を目指すと同時に、一人ひとりが自分の人生や生き方を考える過程を支えていくのが学生相談であり、カウンセラーの役割です。竹淵先生は学生たちに対して、「授業や学生相談の中で、直近の評価に惑わされず、すぐに答えの出ない問題や正解が一つではない課題にじっくり取り組む経験をしてほしい」と言います。また、今の学生には親や教員以外のちょっとした相談のできる大人の存在が少なく、また学生自身が失敗を恐れ新しい経験を避けがちだと感じているそうです。「ひとつの失敗や、人間関係がうまくいかない」と行き詰まってしまう学生が多いです。そんな学生に寄り添い、一人ひとりが見えてほしいと思うことに一緒に向き合っていきたいです」と竹淵先生は語りました。

1994～
国立病院の
小児科病棟に
ボランティアとして在籍

1996
聖学院大学児童学科
卒業

1999
聖学院大学の
学生相談室にて勤務

2012
聖学院大学
こども心理学科所属
(学生相談室 継続)

2017
聖学院大学
基礎総合教育部 所属
(学生相談室 継続)

同窓会紹介

聖学院各校・園の同窓会活動についてご紹介します。
同窓会を通じて、久しぶりに級友と
コミュニケーションをとってみませんか？



聖学院小学校

聖学院小学校同窓会 「ぶどうの木」

設立 1991年

代表者 勝倉 雄二

<https://www.seig.ac.jp/prim/category/graduate-news/>

●活動内容

- ・代議員会、会員総会の開催
- ・聖小フェアへの参加
- ・チャリティーゴルフコンペの開催
- ・小学校への経済的支援

●卒業生へメッセージ

小学校の記憶は大人になっても懐かしく、立ち戻ることのできる時代そのものです。ふと、懐かしい仲間に出会いたくなった時、あなたも同窓会の活動に参加してみませんか。



女子聖学院中学校・高等学校

女子聖学院中学校 高等学校「翠耀会」

設立 1918年

代表者 大塚 明子

<https://www.joshiseigakuin.ed.jp/suiyukai/>

●活動内容

- ・同窓会誌「翠耀」発行
- ・聖書研究会（月1回）
- ・購買部運営
- ・新入会員歓迎会
- ・卒業生への記念品贈呈
- ・高校卒業時皆勤者・精勤者に記念品贈呈
- ・総会（年1回）



●卒業生へメッセージ

6月第一土曜日の総会、11月の記念祭、12月の学校主催の「卒業生と祝うクリスマス」などの機会に、ぜひ母校をお訪ね下さい。年1回発行の同窓会誌「翠耀」をご覧になってのご意見や掲載する同窓生の情報などございましたら、ぜひ、ご連絡ください。住所変更等ございましたら、翠耀会までお届けをお願いいたします。

（翠耀会 FAX: 03-3910-9414）



聖学院中学校・高等学校

聖学院中学校 高等学校同窓会

設立 1926年

代表者 三枝 正和

<http://www.seig-boys.net/>

●活動内容

- ・総会・懇親会の開催
- ・会報の発行
- ・親睦旅行会（日帰り含む）
- ・親睦ゴルフ
- ・母校が記念祭において開催するホームカミングデーやメサイア合唱団への協賛



●卒業生へメッセージ

コロナに翻弄された2年間でしたが、同窓会への皆様の関心は以前に比べて高まっています。今後は楽しい親睦事業も企画していきますので、どうかよろしく願いいたします。



懐かしむだけではない同窓会の意義

在校時の友人と会って久しぶりに旧交を温める。同窓会の意義の一つです。ただ同窓会の意義はそれだけではありません。聖学院は日々進化しています。中高、大学はメディアの注目を集めることも増えてきました。幼稚園、小学校では一人ひとりの成長に寄りそう姿勢がさらに深まりました。また卒業生の中には積極的に社会貢献をしている方たちもいます。母校の新しい情報が入ってくる機会にもなり、社会人としての学びや交流にもつながります。ぜひ同窓会活動にご参加ください。



聖学院広報センターnote公式アカウントで、卒業生の紹介記事を配信しています。ぜひご覧ください。



聖学院みどり幼稚園

聖学院みどり幼稚園 同窓会

設立 2007年
代表者 小山 浩史
<https://www.seig.ac.jp/midori/>

●活動内容

- ・毎年GW(みどりの日)近辺に開催するつくしの会(小中学生対象)
- ・毎年海の日に開催する同窓会(高校生以上対象)
- ・10月の幼稚園バザーへの出展

●卒業生へメッセージ

同窓会はコロナ禍で2回連続で開催していませんが、状況を見て再開したいと思います。同窓会には歴代の担任の先生や卒園生も多く参加してくれます。自分の子どもを通わせている同窓生のお父さん・お母さんも子どもと一緒に参加してアットホームな雰囲気で開催しています。草木の多い幼稚園を訪ねて、懐かしい顔に再会できますよ。



聖学院大学

聖学院大学 同窓会

設立 1993年
代表者 島田 大輔
<https://www.seig-dousou.com/>

●活動内容

- ・卒業生へ向けて会報誌発行
- ・ヴェリタス祭でのホームカミングの開催
- ・ヴェリタス祭や卒業関連行事への支援



●卒業生へメッセージ

聖学院大学同窓会では卒業生である会員相互の親睦を深めるため、また、学生、卒業生、大学をつなぐ架け橋となるよう活動しております。活動に賛同し共に協力していただける方を必要としており、今後の更なる母校発展のため、活動へのご賛同、ご協力どうぞよろしく願いいたします。



聖学院幼稚園

聖学院幼稚園 同窓会

設立 1972年
代表者 本橋 喜久子
<https://www.seig.ac.jp/kinda/>

●活動内容

- ・周年事業となる節目の年に活動し、現役の先生方と一緒に祝い会などの企画を立てています。
- ・毎年、春分の日に開催の、20歳になった卒園生を迎えるホームカミング

●卒業生へメッセージ

20歳を迎えた卒園生に幼稚園へ帰ってきただけはホームカミングは、コロナ禍で3回行えていません。楽しみにしてくださっている卒園生や保護者の方がいますので、状況を見て必ず開催したいと思います。遊んでいた園庭に立ちまわったり、使っていた幼稚園の椅子に座ってみたりして、小さかった頃を思い出してもらいたいです。当時の先生方も参加してくださいませ。「おかえりなさい!」とお迎えし、卒園生と保護者の方と懐かしいお話をしたいと思います。お知らせが届きましたらぜひ、いらしてください。



※住所変更等の連絡は、各校同窓会、各校事務室(電話番号は裏表紙に記載)またはASF事務局までお知らせください。
ASF事務局: 03-3917-8530(月~金 9:00~17:30)
pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

Chair's message

ご挨拶



学校法人 聖学院
理事長

清水 正之

PROFILE

1947年横浜市生まれ。東京大学文学部倫理学科卒業後、同大学院人文科学研究科倫理学専攻修士課程修了。同博士課程単位取得退学。博士（人文科学）。2008年聖学院大学文学部教授に就任。2015年聖学院大学学長に就任。2017年学校法人聖学院理事長に就任。

人と関わり、その人の痛みに寄り添い、
行動することで知を力に変えていく



中長期計画 (SEIG VISION 2018-2023) の詳細は
こちらからご確認いただけます。

2018年に策定された聖学院ビジョンも今年で5年目になります。聖学院ビジョンは教育と経営、2つのアクションプランからなる中長期計画です。今年もそれぞれ進展と新たな目標が見えた1年だったと感じております。

教育の司令塔的組織がさらに前進

教育面では今年、駒込キャンパスの教育デザイン開発センターが本格的に始動しました。教育デザイン開発センターは、SDGs、英語、ICTにおいて駒込3校（聖学院小学校、女子聖学院中高、聖学院中高）が連携して教育改革を推進していく組織です。各校から有志で教員が集まり、毎月のように研究会や勉強会を行っています。そこで得た成果を各校に還元していくことで駒込全体の教育力のアップが図られています。2021年度は「SDGs・ESD教育デザインユニット」「英語グローバル教育デザインユニット」「ICT活用教育デザインユニット」という分野ごとのプロジェクトが立ち上がりました。英語やICTの模擬授業、生徒による防災エコプロジェクトのワークショップなど、より具体的に実践的な活動が行われました。何よりこれらのワークショップを通じ、他の教員や生徒も共に活動する新しいステージに進んだことが、この一年間の成果だったと思います。

駒込3校で教育を共有するということは、小学校から高校までデザインされた教育が実施できるということです。小学校で学んだことが中学で途切れず、高校までスムーズに続いていくということは、子どもたちにとってとても重要なことです。そこにも教育デザイン開発センターの意義があります。また中学・高校における文部科学省の教育改革は、大学入試改革にもつながり、大学のあり方自体にも影響を与えています。中高と大学がそれぞれの教育改革への研究対応を共有できればさらに大きな成果を得られます。今後は、駒込3校のより一層の一体化に加え、中高、大学との連携を強めていきたいと考えております。

大学においては、教育開発センターがより一層充実して参りました。コロナ禍により、教員はオンラインに最適化した

授業が必要となり、自発的に教育手法を研究するようになりしました。その中でチームや研究会が誕生し、教育改善の試みや問題意識の共有が図られ、一つの財産を形成していただきました。この知の財産を大学として束ね、さらにICTに限定せず新しい教育手法の試みを共有する場として作られたのが教育開発センターです。今では教員の教育手法の成果や、ルーブリックやシラバスに関する問題などを統括し、計画を立てて教員にフィードバックする授業改善の中心的な組織になりつつあります。教育全体を、建学の精神に沿って俯瞰し、また学科や学部として一つの目標に向かっていくかなどチェックしてデザインしています。

さらに2022年度はサステイナビリティ推進センターが誕生しました。授業、課外活動、いずれの場合もSDGsの推進にはボランティア活動支援センター、地域連携教育センターとの連携が必要になります。また地方自治体や企業もSDGsには強い関心を寄せています。サステイナビリティ推進センターは、各団体、自治体、企業と連携し、要請に応えていくための司令塔的な組織です。一方、サステイナビリティに関する問題意識をどう研究や授業に組み込んでいくかを教員同士で研究する場でもあります。聖学院ビジョンのキーマッセージでもある「誰一人取り残さない」「世界の実現」を体現する組織です。

2023年からは児童学科が子ども教育学科に名称変更します。この学科名称変更には、幼児教育を中心に置いていた学科の学びを小学校まで広げるという意味があります。小学校教諭をはじめ子どもに関する専門性をもつ人材の輩出は、大学が地域に対して行える具体的な還元だと思えます。また絵本や音楽など文化的側面からも子どもを支えられる人材を輩出したいと考えております。

教育の変化に合わせて経営的力点を変えていく

経営的な側面においては、まず大学の志願者の増減を安定させるといふ課題があります。どうしても増減は発生しますが、それに対し冷静に判断し、安定化させる努力は必要です。また教育が時代によって変化していくため、そ

れに合わせて経営的な力の配分を変えていくことが大切です。前述の教育デザイン開発センターも力を集中した例の一つで、志願者増加という明確な成果を得られました。聖学院ビジョンは、まさに中長期で経営の重点を置くべきポイントを明確にしている計画書です。一歩先を見つ、足元も確かめながら進んでいきたいと思っております。

行動することで知を力に変える

私は聖学院が育てる人物像として「対話力、共感力、実践力」という言葉をよく使います。対話力、共感力は人と関わり、その人の痛みをわかち合おうとする姿勢です。寄り添い否定せずに耳を傾ける。建学の精神にも通じるこのスタンスは中高、大学だけではなく幼稚園、小学校にも通じる大切な力だと考えています。

また実践力は行動するということです。知を得て自分なりの答えが出るまで考え続けることはもちろん大事です。しかし社会課題にはすぐに行動しなければならぬものもあります。また知は実践していく中で力となって変わっていく側面もあります。学び得た知を実践して、初めて知は力となり「人に仕う」ことが実現します。中高のアクティブラーニング、小学校の探究学習、幼稚園の自然や身近なものとの関わりを大切にすること、これらは聖学院が共通して重視している実践の部分です。そして中高と大学ではボランティア活動をはじめとする生徒・学生主体のプロジェクトが次々と立ち上がっています。自ら知を実践する生徒・学生が育っている何よりの証拠であり、聖学院の教育の成果だと感じております。

聖学院は2023年に創立120周年を迎えます。これもひとえに卒業生ならびに保護者の皆様の日頃のご支援の賜物と、心から感謝申し上げます。加えて卒業生の皆様には、聖学院の卒業生として社会での益々の活躍を期待しております。これからも持続可能な社会の実現に貢献できるよう尽力して参ります。ぜひより一層の理解と継続的な関心をお寄せください。

皆様のあたたかいご支援に 心より感謝申し上げます

2021年度 ASF募金総額

934件
3億451万912円

(2022年3月31日現在)

2021年度は、昨年度に引き続き、コロナ禍による教育活動の制限が続きましたが、駒込キャンパスでは「教育デザイン開発センター」が発足し、小中高の教職員が連携して、SDGs、英語、ICTの3つのユニットで教育改革を推進しています。大学でも授業改革のための検討が始められ、教育開発センターによる教育手法の研究と共有化が進められました。

施設設備につきましては、ICT教育推進のための施設・設備の充実（ハイフレックス型授業対応教室への改修、無線LAN設備増設等）、省エネルギー化につながる空調設備更新や照明のLED化、誰もが使いやすい施設にするためのバリアフリー化等が進められました。

経済的な理由で学業を続けることが困難な在校生のための奨学金にも多くのご支援をいただいています。女子聖学院では、2022年度より「バーサ・F・クローソン記念奨学金」を開始、学業に励む生徒への支援を充実させています。

2021年度募金実績報告
詳細と寄付者ご芳名については、ASFホームページにてご紹介しています。
こちらをご覧ください



2021年度 寄付者から寄せられたメッセージ

☑ 様々な面で学校教育の充実と発展を
祈っております。

☑ 教職員の皆様の熱心で温かみのある指
導に親子共々感謝しております。

☑ 貴学の新しいことに挑戦する姿勢や教
育への在り方がとても素晴らしいと感じ
ております。

☑ 学校の活動を支援したく寄付をさせて
いただきます。

☑ 未来を担う子どもたちをお願いいたし
ます。

☑ コロナが落ち着き、普通の学生生活が
送れることを願っております。

ASF (オール聖学院フェロースhip) とは

聖学院教育を財政面で支えることを目的として、幼稚園から大学・大学院までオール聖学院の卒業生・保護者・後援会・教職員等によって1988年に設立されました。「神を仰ぎ 人に仕う」キリスト教教育を実践し、社会に貢献できる人材を育てるため、皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

お知らせ①

2023年

聖学院は創立120周年 (ディサイプルス派日本宣教140周年) を迎えます

2023年10月28日(土)・30日(月) 創立120周年記念礼拝・講演会を行う予定です。

※詳細は決まり次第お知らせいたします。

2021年度 ASF募金によって実現したことの一部をご紹介します

教育および施設設備充実

聖学院大学

4号館空調設備更新 2号館トイレ改修
2号館・4号館自動扉設置
ハイフレックス型授業対応教室への改修
チャペル棟無線LANアクセスポイント増設



2号館自動扉設置（バリアフリー化）

女子聖学院中高

体育館エアコン設置
特別教室プロジェクター更新



体育館エアコン設置（教育環境の整備）

聖学院中高

校舎空調設備更新 本館中央階段手摺増設
無線LANアクセスポイント増設



本館中央階段手摺増設（安全対策）

聖学院小学校

体育館照明LED化



体育館照明LED化（省エネルギー化）

奨学金

聖学院中高

女子聖学院中高

奨学金として、計13件支給

将来に備えての積立

- ・大学厚生棟のため
- ・聖学院みどり幼稚園園舎のため
- ・女子聖学院中高体育館のため
- ・聖学院中高体育館・中学棟校舎のため
- ・聖学院小学校体育館のため
- ・各校奨学金基金のため

\\ 卒業生・保護者の方も応募できます! //

お知らせ② 第3回聖学院SDGsコンテスト 開催

学校法人聖学院では、「第3回聖学院SDGsコンテスト」を開催いたします。このコンテストは、SDGsにつながるモノ・コトを写真や動画に収めて共有する投稿型ソーシャルアクションイベントです。2022年度フォト&ムービー部門のテーマは「未来に残したいもの」。卒業生も含めた全ての聖学院関係者が参加することができます。詳しくは2022年8月1日（月）にオープンする聖学院法人ウェブサイト（<https://www.seig.ac.jp/>）特設サイトをご覧ください。

聖学院小学校
アフタースクールの
責任者



支える 人たち

聖学院を外から支えてくださっている人たちに
聖学院への想いを伺ってみました。

No.
03

放課後NPOアフタースクール
やまだ しんのすけ
山田真乃介 さん

中学・高等学校の体育の教員を10年間勤める。学校教育における一律のカリキュラムの必要性も理解しつつ、一人ひとりに個別最適化した学びを模索。その中で放課後NPOアフタースクールに出会い、2018年に転職。現在聖学院小学校のアフタースクールで管理者を務める。

子どもたちが自分で選んで、決めて、つくる
主体的な放課後作り

保護者の共働き世帯の増加や生活環境の変化に伴い、放課後、子どもたちが安全に遊べる場所が減っています。学童保育は3年生までの地域もあり、受け皿も足りているわけではありません。一人で家にいるか、塾や習い事に行く、そういう放課後の過ごし方が増えています。このような社会課題に向

き合い、すべての子どもたちに安全で豊かな放課後を届けるために活動しているのが「放課後NPOアフタースクール」です。聖学院小学校でアフタースクールを運営している山田真乃介さんに、その活動内容と聖学院小学校について伺いました。

「放課後NPOアフタースクールは」放課後は「ゴールデンタイム」というビジョンを掲げ、多くの子どもたちが放課後に友だちと自由に過ごせるよう活動しています。小学校を使わせていただくことで、安全性や費用など様々な課題をクリアしています。子どもの移動がないこともメリットの一つです。アフタースクールには書道、ピアノ、サツカー、チャリディングなど様々なプログラムがあります。週1回、地域の方にスペシャルプログラムの講師として参加してもら

ることもあります。そして何より重視しているのは主体性です。子どもたちが放課後を自分で選んで、決めて、つくる。そういう主体的な時間になることを大切にしています。

聖学院小学校の子どもたちは、とにかく様々なことに興味・関心があります。新しいプログラムを始めると「やりたい、やりたい」と積極的に参加しますし「こういことがしたい」と提案してくる子どももいます。また先生方も時々アフタースクールを見に来てくれます。なかなかそういう先生はいないので、学校全体で子どもたちを温かく見守っているという印象を持っています。」

アフタースクールでは、クラスや学年を超えた子どもたちのコミュニケーションが生まれ、それにより非認知能力、課題解決能力、主体性などが育っていくことも期待できます。聖学院小学校では毎日30人くらいの子もたちがアフタースクールに参加しています。山田さんは「もっと多くの子どもが参加して、アフタースクールが、塾や習い事など、放課後の選択肢の一つになるよう頑張っていきたいです」と語ります。

まだまだあります!

Seig NEWS

学生も生徒も教員も職員も
次のステップへと
日々新しい試みをしています。

聖学院大学



学生の意見を積極的に反映 バリアフリースイートイレ 「みんなのトイレ」を設置

4月13日(水)、バリアフリースイートイレ「みんなのトイレ」がお披露目されました。このトイレは学生の大学生活をサポートする学生団体「キャンパス・ライフ・サポーター (CLS)」の意見を取り入れ、様々な人が利用しやすいように設計されています。扉のデザインは学生発案で、学びの場である大学を象徴するノートに多様性を意味する虹色に彩られた人型のピクトグラムが飾られています。また多様性を尊重する重要性を実践する形で、キャンパス内の多目的トイレも「みんなのトイレ」として名称・デザインを統一しました。

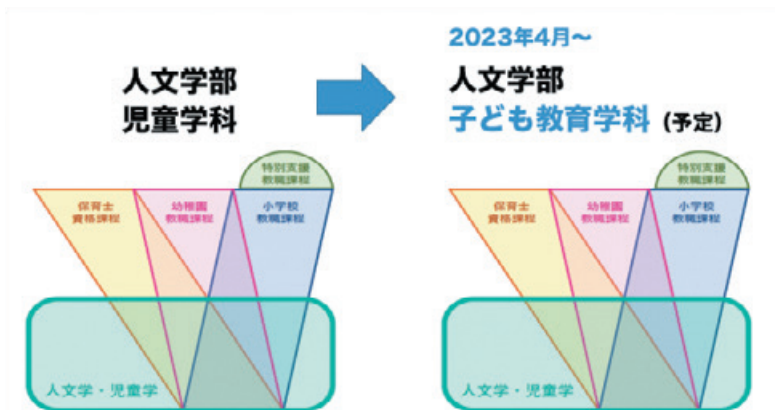


聖学院大学



児童学科を「子ども教育学科」へ名称変更 児童学科として歩んできた30年を守りつつ、 将来を見据えた "子どものプロフェッショナル"を育成

人文学部 児童学科は、2023年4月から「子ども教育学科」へと名称変更を予定しています。同学科では子どもの言葉、表現、心理などを理解することを学びの第一歩とし、子どもの世界を理解しその意を汲んで関わる力を養います。また、保育・教育職を希望する学生のためには専従スタッフがいる教職支援センター・実習準備室があり、授業の他にも資格・免許状取得から採用試験対策まで支援します。子どもの意を汲む力は言葉をこえて他者と通じ合う力になり、卒業後の進路は多様な職種に広がります。





聖学院大学総合研究所



基礎自治体マネジメント研究会が始動
若手・中核人材育成プログラムの
第1回成果発表会を開催

3月12日(土)、総合研究所基礎自治体マネジメント研究会主催「基礎自治体 若手・中核人材育成プログラム」の研究発表会が行われました。このプログラムは、昨年度より本学が包括連携協定を締結している12自治体の職員を対象に行われています。発表会では1年を通して各自自治体の課題について研究した自治体職員がその成果を発表し、また基調講演として国際基督教大学特任教授の西尾隆先生にご講演いただきました。プログラムは今年度も引き続き行われており、地域と共生する大学として、さらなる貢献が期待されます。

聖学院大学総合研究所



高橋義文先生を追悼
ラインホールド・ニーバー研究会
及び 組織神学・伝道研究会を開催

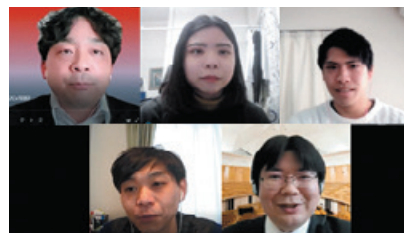
2月25日(金)、「ラインホールド・ニーバー研究会 及び 組織神学・伝道研究会」が開催されました。本研究会は2021年にご逝去された高橋義文先生(元聖学院大学総合研究所所長・名誉教授・同大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学教授)の多大なる貢献に感謝し、またニーバー研究へのご功績を偲んで行われました。なお追悼の全文は、『総合研究所Newsletter』Vol.32(7月発行予定)に掲載される予定です。

聖学院大学総合研究所



ソーシャルワーク研究講演会を
開催
卒業生も交えて
ソーシャルワークに
大切なことを学ぶ

2月26日(土)、「ソーシャルワーク研究講演会」が行われました。主題を「ソーシャルワークに大切なこと〜コロナ禍に改めて考える価値〜」とし、本学の卒業生・在校生によるシンポジウムや、ソーシャルワーカーのご経験豊富な富島喜揮先生(四国学院大学社会福祉学教授)による講演を行いました。最後は柏木昭先生(聖学院大学名誉教授)にソーシャルワークに大切なことやソーシャルワーカーのアイデンティティについてご講評いただき、コロナ禍におけるソーシャルワークの価値を共有する実りある時間となりました。



聖学院中学校・高等学校



「数字で見る六義園の変化」 中学1年生PBL（プロジェクト型学習）

2021年度2学期に中学1年生が実施したPBLが一般社団法人 Future Edu「ブリッジラーニング」に取材・掲載されました。「数字で見る六義園の変化」プロジェクトとは、数学科と理科科のコラボレーションにより実現した授業で、2ヶ月間計10コマの構成です。生徒は六義園フィールドワークを通して庭園の各地を撮影。写真から数学的・理学的視点を活用して変化を観察し、分析の結果をプレゼンテーションしました。六義園サービスセンター所長からのフィードバックを得てリフレクションを行い、教科学習の意義や視点を持つことの大切さをそれぞれに学びました。



聖学院中学校・高等学校



家族への感謝を伝える 「母の日礼拝」

聖学院中高では毎朝15分、礼拝を行なっています。5月18日（水）は「母の日礼拝」として、中学1年生全員が「家族への感謝」をテーマに作文を書き、各クラスの代表者1名計5名の生徒が朗読しました。普段意識はしていなくても、あらためて「家族」と向き合ったとき、日々の小さな出来事から、これまで経験してきたとでもつらい出来事の中で、いつだって家族がそばにいてくれた、家族が助けてくれたことへの気づきが語られました。伊藤校長から「かけがえのないもの」とのメッセージが語られ、聖書の言葉から家族への想いを深める時となりました。



女子聖学院中学校・高等学校



2名の牧師先生による「特別礼拝」

5月16日（月）から4日間「特別礼拝」が行われました。16,17日は八王子中野キリスト教会牧師須郷裕介先生にお話をいただきました。劇団四季「キャッツ」が聖書になぞらえた物語であるというお話と共に、ギターを片手に賛美していただきました。18、19日には垂穂キリスト教会の牧師を務める桐山壘先生が、ハーフである故に感じていた疎外感がキリスト教に出会い自分が変えられ、前に進むことができたとお話いただきました。両日共に心に残るお話を伺い、チャペルで「神を仰ぐ」時間となりました。

聖学院小学校



「はたらく消防」の写生会

5月9日(月)、聖学院小学校の校庭で2年生の「はたらく消防」の写生会が行われました。例年は滝野川消防署に行って写生会を行います。今年は特別に消防署から3台の車が小学校の校庭に来てくれることになりました。校庭に整列した消防車や救急車を間近にしてその大きさや見たこともない装備に大興奮。子どもたちはその思いを紙につづるように、自分が気に入った車のそばで、一生懸命に描いて作品を仕上げました。最後に消防署の方からお話があり、みんな真剣に耳を傾けていました。2年生の子どもたちにとって、忘れられない貴重な経験となった写生会でした。



聖学院小学校



聖学院小学校スポーツデイ開催

5月20日(金)晴天の下、スポーツデイが行われました。今年はコロナの影響を受ける中、6年生の保護者のみ参観という形での開催となりました。この日のために、鼓笛隊による入場行進や応援合戦、各種競技など、子どもたちはそれぞれが一生懸命練習に励んできました。当日はその成果を存分に発揮し、どの学年でも手に汗握る熱戦を繰り広げられ、見応え十分の一日となりました。僅差で赤組が勝利を収めました。白組のがんばりも素晴らしく、最後はお互いの健闘をたたえ合いました。今年も聖学院小学校らしい温かく充実したスポーツデイとなりました。



女子聖学院中学校・高等学校



「iPadの良き使い手」を目指して 2022年度iPad授与式

5月11日(水)クローソンホールにて中学1年生へのiPadの授与式が行われました。まず「iPadのよき使い手」となるための注意事項が説明され、生徒たちは真剣な様子で説明に耳を傾けました。説明の後はいよいよiPadの授与。各クラスの担任の先生から生徒一人ひとりにiPadが手渡されました。女子聖学院中高はデジタル・シティズンシップ教育を大切にしています。生徒たちが「iPadのよき使い手」となり、そうあり続けてくれることを願っています。



聖学院幼稚園

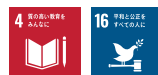


駒込キャンパス お散歩!

5月20日(金)、この日は春の親子遠足(新宿御苑)の予定でしたが、みんなで出かけることが難しく予定を変更! 年中組と年長組が2人組で手をつなぎ、駒込キャンパスのお散歩に出かけました。女子聖学院の中庭を通り、クローソンホールで少し休憩。「聖学院幼稚園が最初にあった場所」に行くこともできました。女子聖学院から聖学院中高へ続く普段は開いていない門を通り、お兄さんたちの学校へ。高いベルタワーを見上げた後は、みんなで記念写真を撮りました。幼稚園に戻ってからは、小学校のスポーツデイの観戦をしたりして、この日は駒込キャンパスを十分に楽しんだ一日でした。



聖学院幼稚園



母の日礼拝

5月12日(木) 聖学院幼稚園は、小学校のチャペルをお借りして「母の日礼拝」をお捧げしました。幼稚園からチャペルまでの道のりは、年長さんが年少さんをしっかりとエスコート。大好きなお母様と一緒に礼拝を守り、チャプレンの中村先生より母の日の始まりについてのお話を聞きました。礼拝後は各クラスに分かれ、お母様に似顔絵のプレゼントをして、「おかあさん、いつもありがとう!」という気持ちを伝えることができました。



聖学院みどり幼稚園



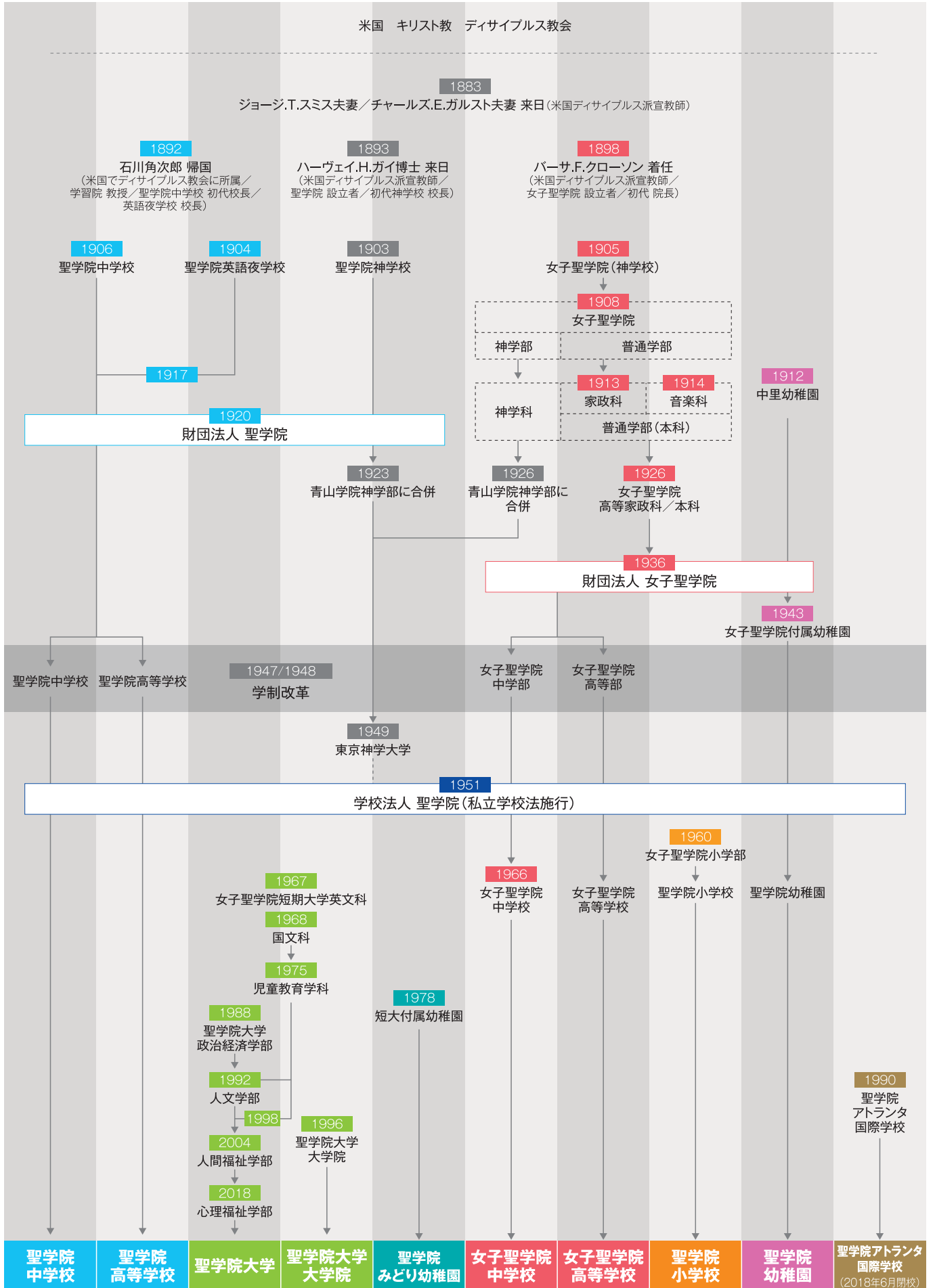
創立記念礼拝

5月23日(月)、44周年を迎えた聖学院みどり幼稚園は、保護者の方々とともに創立記念礼拝を守りました。創立時は草木や花が全然なく園舎だけだったみどり幼稚園。赤田園長先生はみどり幼稚園の創立時の写真を園児たちに見せながら、神様に守られてみどり幼稚園がここまで成長できたこととお話すると、園児たちは今と全然違う幼稚園の姿に驚きながら興味津々に聞き入っていました。園児たちも卒園生たちも、そしてみどり幼稚園も、これからもずっと神様に愛され続けて、ますます成長していくことをあらためて感じる事ができた創立記念礼拝となりました。



聖学院の歴史

History of Seigakuin University & Schools



非売品



プレゼント対象
寄付期間
2022年4月1日～
2023年3月31日

ここでしか手に入らない
スプーンに【SEIG】刻印入り！



ASF*へのご寄付が年間合計1万円以上になると 聖学院オリジナルスプーンが届きます

*ASF（オール聖学院フェロシップの略で、聖学院全体の後援組織）



onagawa fish とは？

心込めた、物づくりの結晶。

仙台の家具デザイナー工藤さんと友人の湯浅さんが立ち上げ2011年5月から女川の魚倉庫を工房として使わせてもらいonagawa fish は生まれました。制作の中心はいくつもの工程を経て作られる木工キーホルダーのonagawa fish。2022年度はonagawa fish オリジナルスプーンに、聖学院ロゴを印字していただきました。onagawa factory では、プロフェッショナルな物づくりへのこだわりと、心を込めた手仕事により、木工芸品としての質の高い商品をつくりだしています。

学校法人聖学院は、東日本大震災を覚えて復興に向けた取り組みを応援しています

寄付からプレゼント到着までの流れ

- STEP 1 **寄付** インターネットor所定の用紙から寄付をします
- STEP 2 **累計1万円到達** プレゼント対象寄付期間*の中で累計1万円に到達します
- STEP 3 **プレゼント到着** お礼状と一緒にスプーンが届きます



QRコードからも寄付サイトへアクセスできます

【ご注意】

- *プレゼント対象寄付期間 2022年4月1日～2023年3月31日
- ・対象期間中1会員あたり1度に限りプレゼントをお贈りします
- ・「個人」として寄付された方がプレゼントの対象になります
- ・商品の色は写真と異なる場合がありますのでご了承ください



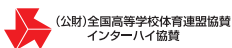
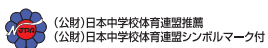
三省堂書店

BOOKS SANSEIDO



未来に、エールを。

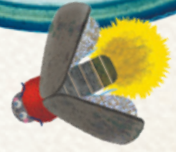
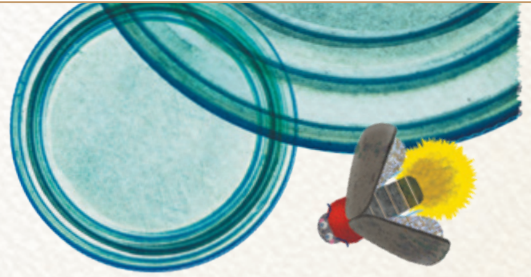
勉強、部活、友情、恋愛。学生生活は色々あって、カラフルだ。
でもだからこそ、誰も見たことのない色で、ワクワクするような
未来が描けるんだ。私たちカンコー学生服は、そんな未来を担う
学生の一番そばで、これからもエールを送り続けます。



東京菅公学生服株式会社

東京菅公学生服株式会社は、カンコー学生服のパートナー企業です。





もっとワクワクする
未来へ

WORK WORK

豊かで持続可能な地球を目指して。
戸田建設は、SDGsの実現に
積極的に取り組んでいます。



www.toda.co.jp

戸田建設株式会社



TOELL

pure
Hawaiian
WATER

Pure Hawaiian Water 320mL PET Bottle

Bottled in Hawaii
TOELL U.S.A. Nimitz Factory

Pure Hawaiian Water starts as rain filtered through porous volcanic rock for 25 years, collecting in natural Artesian aquifer 200 meters deep within the Ko'olau Mountains. From this pristine source, Pure Hawaiian Water is born.

Toell USA delivers safe and pure water to you that is filtered through reverse osmosis. Enjoy the clear and smooth taste of Pure Hawaiian Water.

0120-15-7777

受付時間 9:00~19:00 (日曜日 9:00~17:30) 株式会社トーエル 横浜市港北区高田西1-5-21 東証上場 3361

Pure Hawaiian 320mLペットボトル
ご購入はこちら



おかげさまで創業50周年

株式会社 森田産業運輸

東京本社 〒123-0872 東京都足立区江北3-3-22 森田産業ビル 2F
 TEL03-3890-6666(代) FAX03-3854-3333
 埼玉営業所 〒334-0001 埼玉県川口市桜町1-11-37
 TEL048-281-5533 FAX048-281-3444
 川口センター 〒334-0062 埼玉県川口市榑松 242
 TEL048-282-8889 FAX048-282-8890
 五霞営業所 〒306-0313 茨城県麻島郡五霞町元栗崎4700-1
 TEL0280-23-6602 FAX0280-23-6652



グループ会社

Yasu 株式会社ヤスココーポレーション

Km 株式会社ケイ・エム

mies 東京国際ニュースサービス株式会社



上品、シンプル、
スタイリッシュなデザイン

ポスター／チラシ・DM／ロゴ／web／
UI／パッケージ 他

株式会社 キュー・ジー

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-1 203
 phone : 03-5341-4179 http://qgp.co.jp

庭師の技が冴えるガーデン

<http://www.obazouen.co.jp>



当社に伝わる伝統・技術・技能を社員一人一人が発揮し
 よりよい仕事をより安くお客様にお届けいたします

株式会社 大場造園

〒168-0064 東京都杉並区永福2-47-12
 TEL 03-3321-8688 FAX 03-3325-5329
 ISO9001・2015認証取得

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フイルム ビジネス イノベーション株式会社
 富士フイルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社
 埼玉支社
 〒330-6028 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2
fujifilm.com/fb/company/fbj

ひとつまみの幸せ。



楽しさの演出に、おつまみを。



株式会社 **なとり** 東京都北区王子5-5-1
www.natori.co.jp

練習生募集中!!

※キャンペーン中につき、詳細はお電話でお問い合わせください。

プロ・アマチュアボクサー志望、プロライセンス取得、体力作り・健康維持、ダイエット・シェイプアップ、ストレス・運動不足解消…あなたの目的にあったトレーニングができます!

女性ひとりでも安心☆ 気軽にエクササイズ♪



聖学院を応援しています

金子ジムの金子兄弟は聖学院中学高等学校の卒業生
 会長の健太郎(右)は73回生、マネージャーの賢司(左)は76回生
 中央は元世界スーパーフライ級チャンピオン清水智信(現福井県議会議員)



住所/東京都世田谷区北沢1-45-23
 電話/03-3460-8353

もっと、ここにいたいをあなたへ



おかげさまで創業59年

「もっと、ここにいたい」をあなたへ
IZU 伊豆商事株式会社

タイル・間仕切・空調設備・住宅設備の専門商社

〒130-0023 東京都墨田区立川3-4-6
 e-mail: izu_info@izus.co.jp
 Web: <http://www.izus.co.jp/>

営業所案内

東京営業部(広域・城東・大塚・調布)
 埼玉(草加)・千葉・市原・佐原

聖学院大学教育支援会議 幹事



想いをカタチに
するパートナー。

advertising agency

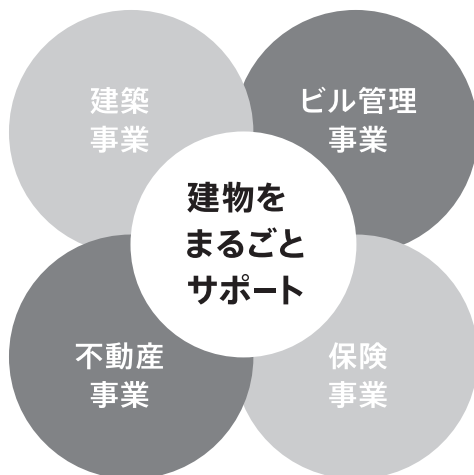
SAITAMA SHINBUN
JIGYŌSHA CO.,LTD

Coca-Cola

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 <https://www.ccbji.co.jp>
COCA-COLA EAST JAPAN Co., Ltd. (コカ・コーラ関東会社) Coca-Cola is a registered trademark of The Coca-Cola Company.



ライフサイクル
マネジメントで、
お客様の
資産価値を
守ります。



戸田ビルパートナーズ株式会社

代表取締役社長 斎藤 好彦
東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館5階
TEL:03-3527-8211

通信コスト削減、業界初の
回線管理業務コンサルティングシステム

「回線秘書」

特許第4868263号

豊富な経験と実績、高い技術力で
トータルにサポート

ナースコール 電話設備 ネットワーク
監視カメラ 施工 保守 コンサルテーション



情報と通信の
電通工業株式会社

〒140-0011 東京都品川区東大井5-11-2
TEL. 03-5479-3711 (大代表)
<http://www.dentsu.ne.jp/>



情シスのお困りごとは すべて私たちにお任せください

ご面倒なIT機器の管理業務を大幅に軽減いたします



株式会社パシフィックネット

(東証スタンダード上場 証券コード: 3021)

本社: 東京都港区芝 5-34-7 田町センタービル 6階

☎ 03-5730-1441 営業時間 9:00~17:45 月~金 (祝日除く)

パシフィックネット

<https://www.prins.co.jp>



IS 506516/ISO 27001



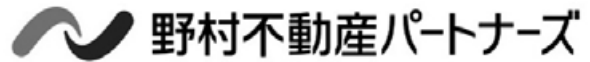
EJ 506864/ISO 14001 (本社・東京ITC)



私たちは、「現場力」と「提案力」にこだわり、
お客様に「安全・安心」と「快適」を提供してまい
ります。

そして、お客様が働き、学び、集い、住まう建物の
身近にあって、最良のパートナーであり続ける事
を目指します。

あしたを、つなぐ — 野村不動産グループ



東京都新宿区西新宿1丁目26番2号

新宿野村ビル8階

教育施設事業一部 TEL 03(3345)0672

<http://www.nomura-pt.co.jp>

教育備品総合商社

ヤマ産業株式会社

学びの場づくりの一翼をになって、
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

- スチール・木製家具
- 各種特別教室
- 黒板・スクリーン
- 学校用品

- 室内装飾
- 図書館設備
- 視聴覚設備
- OA事務機器



〒112-0015

東京都文京区目白台3-26-8

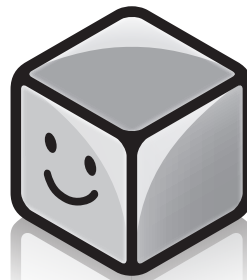
TEL: 03(3941)7258

FAX: 03(3943)3826

皆さまに笑顔と豊かさをお届けする

“グッドスマイルメディア”

を目指して



つくる、
つなぐ、
かなえる

Good Smile Media

総合印刷・マルチメディア・オンデマンド印刷・広告代理業

望月印刷株式会社

望月印刷

検索

〒338-0007 さいたま市中央区円阿弥 5-8-36 TEL.048-840-2112

「安心・高品質・コスト削減のオンリーワン給食システム」

株式会社アイコーメディカル

〒485-0803 愛知県小牧市高根1-200 TEL 0568-78-0966
<http://www.aiko-medical.co.jp>

株式会社伊藤園

〒337-0008 埼玉県さいたま市見沼区春岡3-20-4
TEL 048-687-8661 FAX 048-682-3722
<https://www.itoen.co.jp/>

廃棄物を生かすカー白井グループ

白井エコセンター株式会社

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目10番14号 ばんだいいビル3階
TEL 03-3897-1327 FAX 03-3857-0237
<https://www.shirai-g.co.jp>

西ノ宮株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-14-5
TEL 03-3219-6411 FAX 03-3219-6419
<http://www.nishinomiya.co.jp>

有限会社日東クリーンベスト

〒114-0002 東京都北区王子5-23-16-101
TEL 03-5390-2310 FAX 03-5390-2309

室内装飾

株式会社 フタバ アイデイ

〒116-0012 東京都荒川区東尾久1丁目22番5号
TEL 03-3809-5505 FAX 03-3893-9530

株式会社防災整美

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町6-5岩清日本橋ビル7F
TEL 03-5695-1781 FAX 03-5695-1785



ヤマト通商有限会社

〒173-0004 東京都板橋区板橋三丁目13番15号
Tel 03-3964-8401 Fax 03-3579-7517
E-mail yamatsu@crux.ocn.ne.jp

日勝スポーツ工業株式会社

〒154-0005 東京都世田谷区三宿2-36-9
TEL 03-6805-2106 FAX 03-3410-7314
<http://www.nissho-sports.com/>

株式会社NON

〒114-0002 東京都北区王子2-22-7-6F
TEL 03-6903-3040 FAX 03-6903-3041
<http://www.non-co.com/>

Protection Technology Service

株式会社プロテックス

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー15F
TEL 03-5464-5281 FAX 03-6450-6280
E-mail shibuya@protecs-kk.jp

聖学院小学校 女子聖学院 制服指定店

株式会社ヨシザワ

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目4-15 八重洲通ビルヂング 9F
TEL 03-3271-4996 FAX 03-3281-8331
<http://www.yoshizawa-uni.co.jp>

漆・華・音

伝統も独創も、とどまることなく未来へ。



製造元

柳澤管楽器株式会社
<https://www.yanagisawasax.co.jp/>

聖学院歴史探訪

#17 聖学院教育の歴史

- ディサイプルス教会 下 -



聖学院大学 チャペルの聖書

この二つのグループ（前号参照）が1832年1月に合同してクリスチャン・チャーチ（ディサイプルス・オブ・クライスト）となるのです。両者に共通している信仰は次のようなものでした。①超教派主義。教派・分派は信条をおしつけることからくろくであり、われわれはただイエス・キリストのみを信条とするべきであり、またキリストを証しする新約聖書を重んじるべきである。②万人祭司主義。牧師も信徒も共にキリストのディサイプルス（弟子たち）であり、教会の儀式は信徒であっても司とれる。儀式（聖礼典）としてはバプテスマと聖餐式とがあり、バプテスマは全浸礼（全身を水に沈める）で行い、聖餐式は聖日礼拝ごとを守る。

このように制度的、固定的な信仰から、もっと自由なキリスト教信仰を掲げて伝道を始めたのがディサイプルス教会だったので。

なお、日本で伝道し設立されたディサイプルスの各教会は、1941年に設立された日本キリスト教団に合同し、教団の信仰告白（信条）を重んじ、新約聖書だけでなく旧約聖書をも正典として重んじ、聖礼典は原則として牧師だけが司るようになっています。

（次号に続く）

出典：聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラル・サービス、2006年版（出典より一部変更）

学校法人 聖学院

理事長／清水 正之 院長／山口 博
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-8351
ホームページ <https://www.seig.ac.jp/> E-mail pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

■さいたま上尾キャンパス

聖学院大学

・政治経済学部／政治経済学科
・人文学部／欧米文化学科 日本文化学科 児童学科
・心理福祉学部／心理福祉学科
学長／清水 正之 創立／1988年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 Tel 048-781-0925

聖学院大学大学院

政治政策学研究所／文化総合学研究所／心理福祉学研究所
創立／1996年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 Tel 048-780-1801

聖学院みどり幼稚園

園長／赤田 直樹 創立／1978年
〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820 Tel 048-622-3864

■駒込キャンパス

聖学院 中学校 高等学校

校長／伊藤 大輔 創立／1906年
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1 Tel 03-3917-1121

女子聖学院 中学校 高等学校

校長／安藤 守 創立／1905年
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-2277

聖学院小学校

校長／佐藤 慎 創立／1960年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-1 Tel 03-3917-1555

聖学院幼稚園

園長／田村 一秋 創立／1912年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-2 Tel 03-3917-2725

●インターネットでの寄付のお申し込みについて

クレジットカード（VISA、MasterCard）をお持ちの方は、お申し込みから入金までご自宅等で、PC、スマートフォン、携帯電話からインターネットによるお手続きができます。下記URL、QRコードにアクセス下さい。

<https://www.seig.ac.jp/asf/>



住所変更・広報誌の発送停止・お問い合わせ

<https://www.seig.ac.jp/asf/contact/>

学校法人聖学院ASF事務局

Tel 03-3917-8530（月～金 9:00～17:30）

